					評価結果			そう思う だいたい そう思う		あまりそう そう 思わない 思わない		,	Γ			
		評価項目		А	В	С		0%	20%	40%	/	80%	1009	0%	評 価 委 員 会 か ら の コ メ ン ト(抜粋)	評価 委員
教育の確立信頼される	1	学校の組織力 と学校運営	校長が精度の高い地図と羅針盤をもって明確な経営方針を示 し、全職員が経営参画できる同僚性と協働性を高める。	5	1	0 0	6. '	7		83		1	7		交長のリーダーシップの下で、組織的に協働して運営を行っている。校長先生の経営方針の下、全教員が まとまっている様子が感じられます。教職員の意識は多様だと思うが、しっかり統率していると思います。	Α
	2	安全管理 危機管理	児童の安全安心を全てに優先させ、命を守るために、危険予知・未然防止の徹底等、安全管理・危機管理を徹底する。	3	3	0 0	6. 85.	0	50			50			児童の安全と安心を確保するリスクマネジメントを行っている。防犯は、人の手が一番なので、地域や保護者 エ大して取り組んでいただきたい。許可証のない車があり、車の出入りが心配です。	В
	3	学校公開 情報発信	学校行事や学校公開日などの機会を多く設けるとともに、学校 方針や活動状況など、有用な情報を積極的に伝える。	6	0	0 0	7. 10	0.0		1	00				トームページやマチコミを活用し、頻繁に情報発信をしている。コロナ禍の中でも、学校だよりや学年通信な ご、工夫された内容で、定期的に発行され、学校の活動の様子が知ることができ信頼感を持てます。	Α
	4	カリキュラム マネジメント	教科横断的に各教科等の教育内容を相互に関連付け、配列し、 教育課程全体と往還させ、児童の創造力を醸成する。	1	4	1 0	5. <mark>71</mark> .	0 1	7	(	67	1	.7		教育目標の実現に向けた取り組みを進めている。カリキュラムマネジメントの意味が、説明を聞いてもピンとこない。ただ、各教科がバラバラでなく、縦横をつなげて効果的な指導を目指していることは分かる。	С
	5	学校・家庭・地域 の連携協働	アンケート調査や個人面談等、積極的に保護者等の意見や考え に耳を傾けながら、教育活動を工夫している。	3	3	0 0	6. 85.	0	50			50			学校行事や新たな取り組みごとに、アンケートを実施するなど、保護者の意見を取り入れている。広く意見を聞く体制ができているように思われます。 地域の方々と、様々連携をとっていらっしゃると思います。	В
	6	共にある教育 の実現	学校・保護者・地域が互いに当事者となり、未来の学校の姿を 見据えて共通の目標を共有し、教育課程を編成する。	3	3	0 0	6. 85.	0	50			50			学校は保護者や地域の声に耳を傾けている。前述5の項目との違いが判らない。「共にある教育」には至っていないが、学校が保護者・地域と共に子供を育てるというスタンスは伝わっている。	В
	7	働き方改革 の徹底	全職員が、働き方改革の意義を理解し、野球型からサッカー型の職務行動へと変革し、個が自律した組織とする。	2	3	1 0	5. 3	3	33		50	1	7		多忙な中でも教員が主体性を持って働いている。働き方改革は終わりなきテーマなので、積極的に取り組んでほしい。少しずつ成果が上がっているアンケート結果ですね。先生方の意識が前向きに感じられます。	С
	8		通常級、専科、さくら学級、きこえとことば、大空教室、事務 職員等、すべてが同一のビジョンを共有する組織とする。	4	2	0 0	6. 3 90.	3 . 5	(	67		33			数員が同じ方向を向いて動いている。教員一人一人の得意不得意をきちっと補い合い、支援し合いながら、 同じ条件を子供たちに提供していく姿勢はありがたいです。まさにワンチームですね。	Α
	9	学習習慣・ 学習規律の定着	学びを生かそうとする主体的に学びに向かう力を涵養するとと もに、学習習慣を確立する。	4	2	0 0	6. 3 90.	3	(	67		33			家庭学習の定着は、家庭それぞれなので困難さは拭えないと思いますが、「ふじみ寺子屋」など、児童のや る気を引き出す指導を行っている。授業の学習規律はとてもよい。	Α
学士加	10		実際の社会や生活で生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能 を確実に習得する。	4	2	0 0	6. 3 90.	3	(	67		33			基礎学力習得のための指導を行なっている。授業の進め方については大型画面での説明と会話形式で進 かられ、内容が理解しやすく感じます。授業に参加できない子への手立てをさらにお願いしたい。	Α
力 の 定 な	11		答えのない課題に納得解を導き、新たな価値を創造することができる資質能力を育成する。	1	5	0 0	5. 3 76.	3 1	7		83				新たな価値を創造できる力をつけるためにも、自分で考え表現する力を習得できる指導を進めてほしい。ま と、これからも画一的な教育にならないよう一層工夫してほしい。	В
着 ————————————————————————————————————	12	外部人材 ICT活用	各教科等で外部人材やICTを効果的に活用し、児童の興味・ 関心を高め、自ら学ぶ力や学び合い教え合う力を付ける。	3	3	0 0	6. 85.	0.7	50			50			アブレット等のICT活用で学習への関心意欲を高めている。コロナ禍を契機に、今後もICT分野は形を変えていくと思います。外部人材の活用の方法なども、工夫し続ける努力が必要です。	В
	13	ユニバーサル・ デザイン	ユニバーサル・デザインによる分かりやすい授業、やさしい授 業、個に応じた指導の工夫に努め、適切な支援を行う。	5	1	0 0	6. ' 95.	7		83		1	7		旨示や手順を工夫し、視覚的にも分かりやすい授業を行っている。ユニバーサル・デザインの視点を大切に 」、個に合わせた授業については、とても重要であり、期待します。	Α
	14		個性を生かし、相互の信頼関係を深める中で自己の存在価値の 認識等、自己有用感を高める。	4	2	0 0	6. 3 90.		(	67		33			也者との関係の中での自己を教員が模範となり示している。 読書の習慣がつき、広く学ぶ場がある。 子供一 人一人を大切にされているので、子供たちも明るく、自信を持っているように感じます。	Α
心 の か	15		コグトレ等で認知機能を高め、感情統制、対人スキルを養い、 自他共に敬意をもって関係する力を付ける。	4	2	0 0	6. 3 90.	3 . 5	(	67		33			生活で困らないよう身体面・社会面での認知機能の向上を図っている。 学級の中で、子供たちの良い関係 が築けていて、仲良く生活しているので、子供たちの思いやりの心が育っていると思います。	В
の醸成	16		自他を大切にし、共によりよく生きるために、児童の内面に根 ざした道徳性を育成する。	4	1	1 0	6. 85.	0	(	67		17 1	7		数員の日々の受容的・共感的な姿勢が児童の良きモデルとなっている。子供たちも友達の失敗を責めたり、 強い口調で問い詰めたりすることなく、仲良く過ごしていると思う。	В
	17	心の 居場所づくり	<ul><li>一人一人の居場所づくりや心に寄り添う相談など、不登校等、</li><li>一人で悩みを抱えない相談体制を構築する。</li></ul>	3	2	1 0	5. <sup>8</sup> 1.	7	50		33	3 1	7		SOSカードを用いて、児童の自尊心を育む指導を行っている。子供からのシグナルを見逃さず、適切な対 応をお願いしたい。子供一人一人に合わせた対応が大変ですが、よろしくお願いいたします。	В
体の育成	18	新しい生活様式 の定着	一人に一つの命を自覚し、新しい生活様式に基づき、全ての人 の命を守る意識と行動力を育成する。	3	3	0 0	6. 85.	0	50			50			命を守ることを第一に考えた指導を行っている。反面、学校生活や学校行事では、子供たちが生き生きと活動できるように、メリハリをつけて、対策を工夫していて、感謝いたします。	В
			基礎的な体力の向上と運動習慣、生涯に渡って積極的に運動に 親しむ資質や能力を高める。	1	5	0 0	5. 3	3 . 2 <b>1</b>	7		83				多くの教員が駅伝大会に参加するなど、教員が率先して体を動かすことの楽しさを伝えている。コロナ禍の 中でも頑張っていると思います。運動が気軽にできる環境整備をお願いしたい。	В
	20		心と体の関連性を理解し、様々な欲求やストレス等に対して、 適切に対処できる力を育てる。	0	4	2 0	4. 3 61.		(	67		33			ストレスマネジメントの指導を進めてほしい。ストレスとは何かを理解していないと対応は難しいと思う。子供一人一人に合わせることが場合によって専門的な知識も必要になってきます。	С
	21	健康管理 保健衛生	すべての子供たちが「一人にひとつの命」を自覚し、かけがえ のない命を自ら守ろうとする意識と行動力を育成する。	4	2	0 0	6. 3 90.	3 . 5	(	67		33			すべての命を守るとの信念のもとに感染防止・健康管理が行われている。他の学校に比べると、とてもきびし 、感染症防止に対しているが、そのおかげで安全安心が貫かれていると感じます。	Α
向かって輝く未来に	22	言語能力 の向上	学校図書館の機能の充実を図り、言語能力とともに、未知の課 題に向き合い思索する力を育成する。	4	2	0 0	6. 3 90.		(	67		33			言語メソッドを用いたコミュニケーション能力や感性・情緒を高める指導を行っている。図書館の利用度が高 、、学ぶ、調べる場がある。学校からのおたより等で、取り組みが十分発信されていると思います。	Α
	23	情報活用能力 の向上	1人1台端末やオンライン活用を含め、情報活用能力を育成するとともに、新たな解を創造する力を醸成する。	4	2	0 0	6. 3	3 . 5	(	67		33		R	アブレットを活用し、情報を得る手段や情報のやり取り、通信技術を学べている。市内でも最もICTを効果的 こ活用している学校だと聞いています。ホームページでも詳しく発信されている。	Α
	24		日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚を備え、多様性を尊重し共生・共助社会の実現を目指す。	0		2 0	61.	. 9	(	67		33			異なる文化・言語・価値に触れる機会を増やしてほしい。児童が自ら課題を発見できないのかと思う。個性を 申ばせる教育環境であってほしい。それがグローバル人材を育てることにつながります。	D
	25		校内委員会を中心に、学校生活支援シート及び個別指導計画を 作成し、特別支援教育を組織的に推進する。			0 0	00.	3 . 5	(	67		33			支援の必要な児童に普通の児童と同じ体験をさせていることは大変良いと思う。もう少し特別支援の様子が つかると良い。支援を必要とする子供が増えると思います。 今後も充実を望みます。	Α
					()	1名久	7					(9	%)			_ <u></u>